

南砺市立 2 病院の再編に関する住民説明会

令和8年5月8日／5月14日

はじめに

1 用語の定義について

(1) 医療提供体制に関する用語

① 地域医療

住民が身近な地域で、必要な医療を継続的に受けられる体制全体を指す考え方・概念

② 地域医療構想

2025年までの人口構成や地域の医療ニーズの質・量の変化を見据え、地域ごとに医療機関の機能分化・連携を進めることで、良質で適切な医療を効率的に提供する体制を確保するための計画。国がガイドラインを示し、都道府県が医療圏毎に策定します。

③ 新たな地域医療構想

高齢化がピークを迎える2040年に向けた新たな地域医療構想。2027年4月の開始に向け、2026年に国からガイドラインが示される予定。現行の地域医療構想が入院医療を主な対象としてきた一方、新たな構想では、在宅医療や介護との連携など医療提供体制全体を対象としています。

④ 医療機能

病院や診療所が担う医療の役割、機能（例：救急医療、入院医療、外来診療等）

1 用語の定義について

(2) 病床・医療の内容に関する用語

① 外来機能

入院を必要としない患者が、通院により診察、検査、投薬、経過観察などの医療を受けるための機能

② 入院機能

継続的な治療や看護が必要な患者を病院に入院させ、一定期間にわたり医療を提供するための機能。病状に応じ、高度急性期、急性期、回復期、慢性期等の区分に分かれます。

③ 手術機能

外科的な処置や手術を安全かつ適切に実施するための体制や能力。手術室、医師・看護師・麻酔科医などの専門人材、医療機器を含み、医療の高度化や専門性を支えます。

④ 救急機能

急病や事故などにより、緊急の医療を必要とする患者を24時間体制で受け入れ、迅速に診断・治療を行うための機能。地域の安全・安心を支える基盤となる医療機能であり、他の医療機関との連携も重要となります。

1 用語の定義について

(3) 再編・見直しに関する用語

① 医療再編

将来にわたって地域に必要な医療を維持するため、病院の役割や機能、運営のあり方を見直すこと

② 機能分化

各医療機関が得意な分野や役割を分担することで、限りある医療資源の最適化をはかり、効率的に医療を提供する考え方

③ 集約化

医療機能を一部の医療機関にまとめ、医療の質や安全性を高める考え方

④ 医療資源

地域で医療を提供するために必要となる人・施設・設備・財源などの要素の総称。医療資源は限りあるものであるため、地域の実情や将来の医療ニーズを踏まえ、適切に配置し、有効に活用することが重要となります。

1 用語の定義について

(4) その他の用語

① 南砺市立医療機関

本日の説明会においては、南砺市が設置・運営する市立 2 病院と市立 4 診療所を指す言葉として使用します。

② 二次医療圏

入院治療や救急医療など、ある程度専門的な医療を、地域の中でおおむね完結して提供することを目的として設定された医療区域。都道府県が、人口規模や交通事情、医療機関の配置などを踏まえて設定しており、複数の市町村で一つの医療圏を構成する場合があります。本市は、砺波市、小矢部市と共に構成する「砺波医療圏」に属しています。

③ 医師の働き方改革

医師が過重労働により心身の健康を損なうことを防ぎ、持続可能な医療提供体制を確保するため、医師の時間外・休日労働の上限規制をはじめとする労働環境の改善を進める制度改革。2024年4月から本格的に実施されています。

1 今、なぜ再編が必要なのか

1 今、なぜ再編が必要なのか

(1) 南砺市立医療機関をとりまく課題への対応

(2) 二次医療圏（砺波医療圏）における課題への対応



- ・ **各課題の根本にあるのは「人口減少社会」**
- ・ **【地域医療】 = 【身近な場所で必要な医療を継続的に受けられる医療提供体制】 の維持が困難に**
- ・ **人口減少社会に対応した医療提供体制の再構築が必要**

2 (1) 南砺市立医療機関をとりまく課題

2 (1) 南砺市立医療機関をとりまく課題

南砺市立医療機関をとりまく「待ったなし」の課題

課題① 専門医・看護師等の医療従事者が不足していること

課題② 今後も続く高齢者救急等への対応が十分ではないこと

課題③ 病院事業の経営が急激に悪化していること

課題④ へき地医療の維持が難しくなってきていること



2 (1) 南砺市立医療機関をとりまく課題

課題① 専門医・看護師等の医療従事者が不足していること

①-1 医師の働き方改革による影響

日本病院会、全日本病院協会などで構成する四病院団体協議会が実施した「2025年度医師の働き方改革に関する状況調査」では、医師の働き方改革の全面施行からわずか1年で、医師の派遣中止や派遣回数の削減があったと回答した病院の割合が大きく増加したことが判明しました。

また、本調査に回答した全国の818の病院の半数以上が医師の働き方改革の推進に伴い、診療体制に影響が生じると回答しています。

医師の働き方改革

医師が過重労働により心身の健康を損なうことを防ぎ、持続可能な医療提供体制を確保するため、医師の時間外・休日労働の上限規制をはじめとする労働環境の改善を進める制度改革。2024年4月から本格的に実施されています。

2 (1) 南砺市立医療機関をとりまく課題

【図表1】 医師の働き方改革による影響

○ 医師を派遣している病院の回答

- ・ 医師派遣の中止・削減を行う可能性はない …64.9%
- ・ 場合により医師派遣の中止、削減を検討する …12.3%
- ・ すでに医師派遣の中止・削減を行っている … 7.0%
- ・ その他 …15.8%

○ 医師の派遣を受けている病院の回答（複数選択可）

- ・ 派遣を中止すると連絡があった … 7.6%（前回調査から4ポイント増）
- ・ 派遣数・回数を削減すると連絡があった …13.7%（前回調査から8ポイント増）
- ・ 医師の報酬の引き上げ要請があった … 9.6%
- ・ 特に影響はない …69.5%
- ・ その他 … 4.9%

参考：四病院団体協議会「2025年度医師の働き方改革に関する状況調査」より
※前回調査は2024年に実施

2 (1) 南砺市立医療機関をとりまく課題

課題① 専門医・看護師等の医療従事者が不足していること

①-2 看護師の不足（採用者数の減）

新型コロナウイルス感染症のパンデミック後から看護師の採用者数が急減

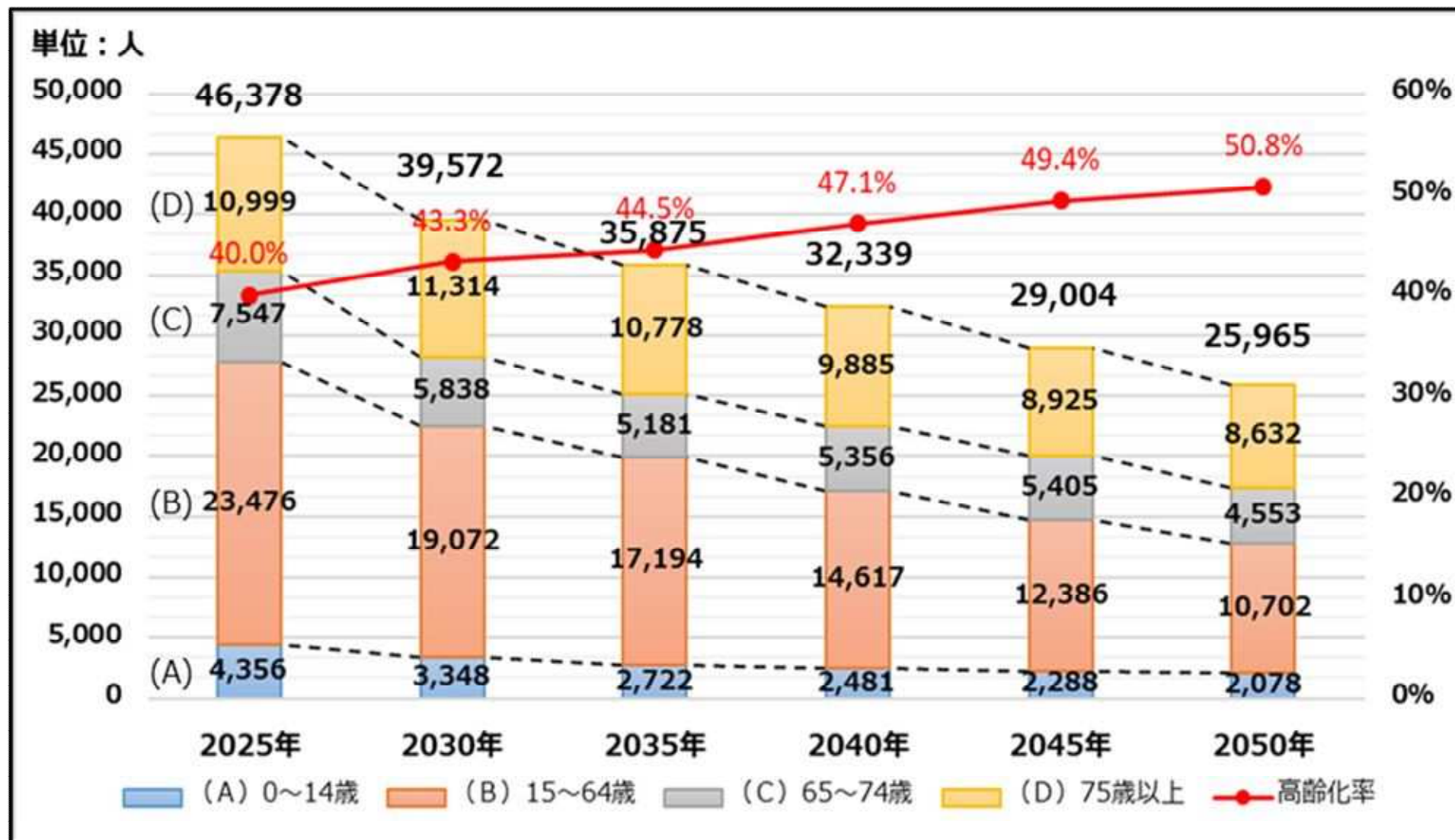
○市立2病院における看護師採用状況

単位：人

	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	募集	採用	募集	採用	募集	採用	募集	採用	募集	採用	募集	採用
南砺市民病院	13	13	10	7	8	8	10	6	12	7	7	5
南砺中央病院	12	9	16	7	19	3	16	6	16	3	11	1

2 (1) 南砺市立医療機関をとりまく課題

○南砺市の将来人口推計



(参考) 国立社会保障・人口問題研究所 日本の市町村別将来推計人口 (2023年度版)

2 (1) 南砺市立医療機関をとりまく課題

課題① 専門医・看護師等の医療従事者が不足していること

①-2 看護師の不足（夜間勤務への影響）

看護師の採用者数が減少する一方、育児短時間勤務制度などの拡充により、育児のための残業免除や深夜勤務の制限の対象拡大など、育児負担の軽減に配慮した働き方の義務化が進められており、特に夜間勤務において、市立2病院ともシフトの編成等に苦慮しています。

○市立2病院における夜間勤務状況（看護師）

	看護単位 (病棟数)	勤務間インターバルの確保		平均夜勤回数(1ヶ月当たり)		正循環勤務の導入
		現状	今後の計画	3交代	2交代	
南砺市民病院	4	○			3.8回	○
南砺中央病院	2	-	-	8.8回	3.8回	-

2 (1) 南砺市立医療機関をとりまく課題

課題① 専門医・看護師等の医療従事者が不足していること

①-3 看護師の業務量の過多

市立2病院の全職員を対象とした業務効率化に関するアンケート結果

【回答された看護師（南砺市民病院34人、南砺中央病院29人）】

- ・南砺市民病院においては約85%
- ・南砺中央病院においては約70%



「職場内に業務過多がある」または
「どちらかと言えば業務過多がある」

2 (1) 南砺市立医療機関をとりまく課題

課題② 今後も続く高齢者救急等への対応が十分ではないこと

南砺市管内における救急搬送件数

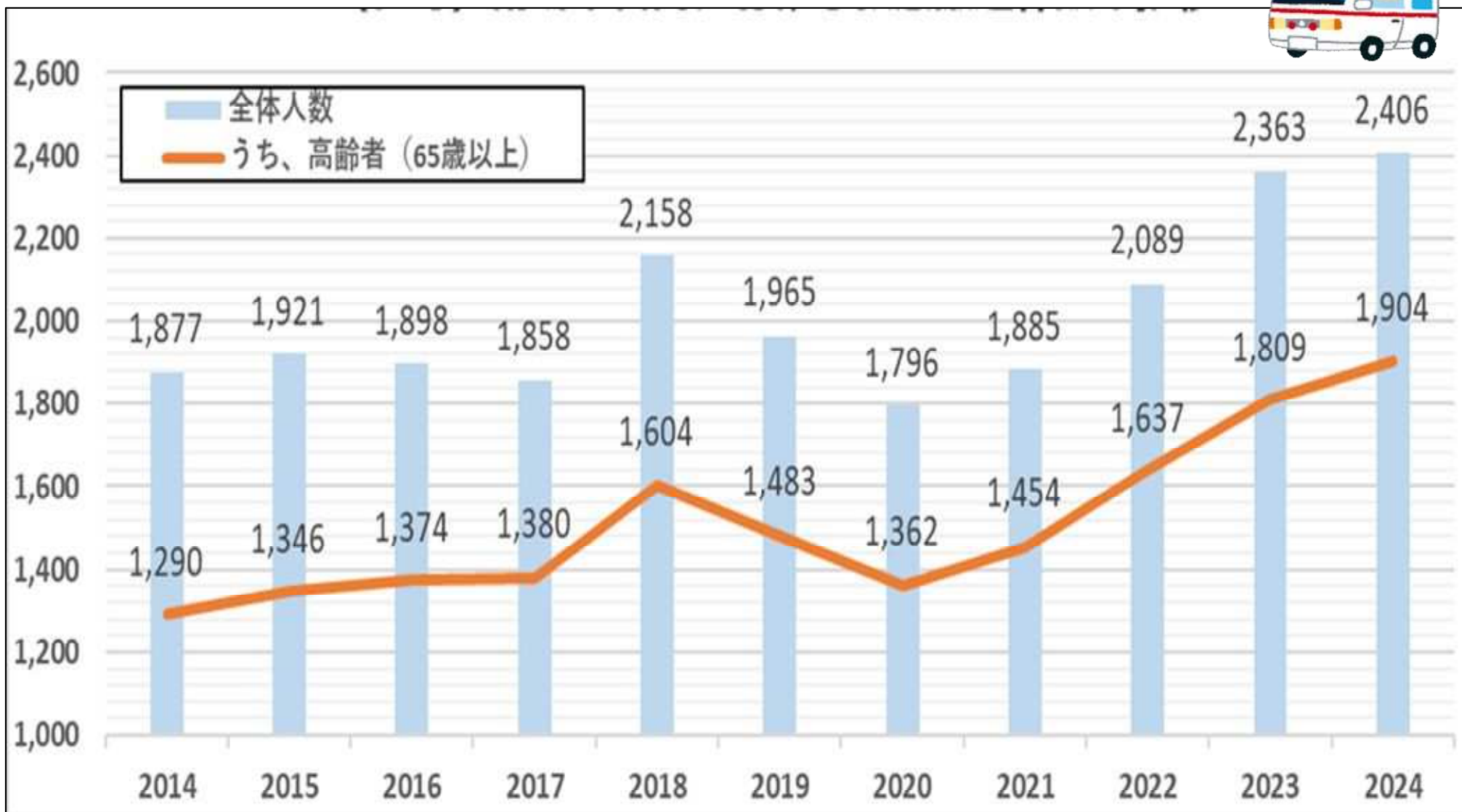


近年、右肩上がりに増加

- ・ 国立社会保障・人口問題研究所による推計によれば、南砺市における75歳以上人口のピークは2030年前後
- ・ 引き続き、高齢者を中心とした救急搬送件数が高止まりすることが予想

2 (1) 南砺市立医療機関をとりまく課題

○南砺市管内における救急搬送件数の推移



2 (1) 南砺市立医療機関をとりまく課題

市立2病院における救急搬送受入状況

【2024年実績】

市立2病院に対する救急搬送件数



年間1,800件程度



このうち、1,713件に対応

全体の約5%に当たる90件程度は受入れができません

2 (1) 南砺市立医療機関をとりまく課題

○市立2病院における救急搬送受入状況（2024年実績）

2024年実績 (1月~12月)	南砺市民病院			南砺中央病院		
	搬送件数			搬送件数		
		受入	受入困難		受入	受入困難
	1,060件	1,018件	42件	738件	695件	43件

(参考) 砺波地域消防組合消防本部提供資料

【参考】2025年受入困難件数（1月~6月）

・南砺市民病院 … **47件** ・南砺中央病院 … **60件**

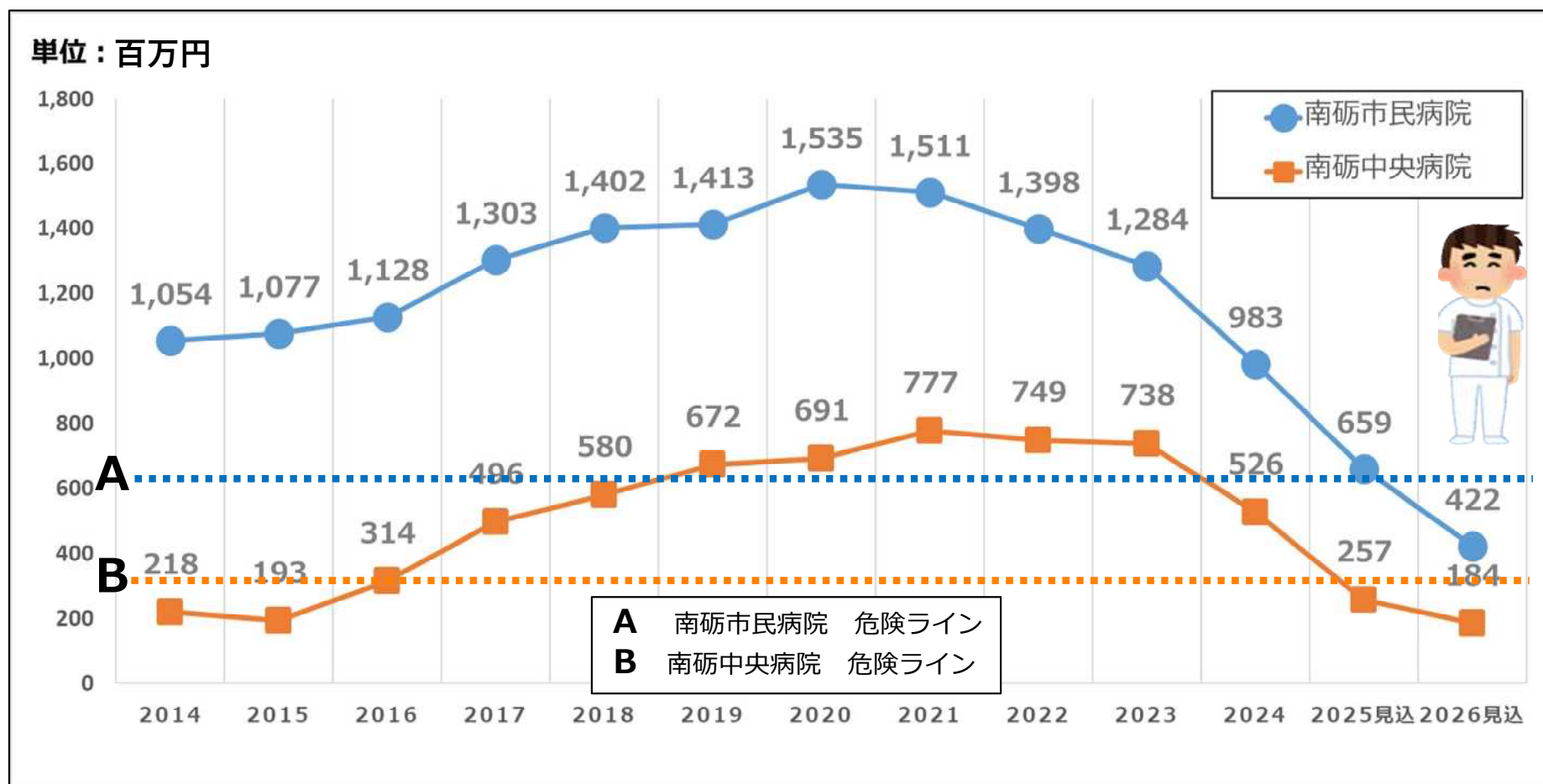
2025年上半期の受入困難件数が2024年の年間受入困難件数を上回る

2 (1) 南砺市立医療機関をとりまく課題

課題③ 病院事業の経営が急激に悪化していること

人事院勧告による職員給与費の増加と物価高騰により病院経営が急激に悪化

○南砺市立2病院における資金残高の推移



2 (1) 南砺市立医療機関をとりまく課題

一般会計からの財政支援について

○一般会計から病院事業への繰出金額【2025年度】

10億9,444万円

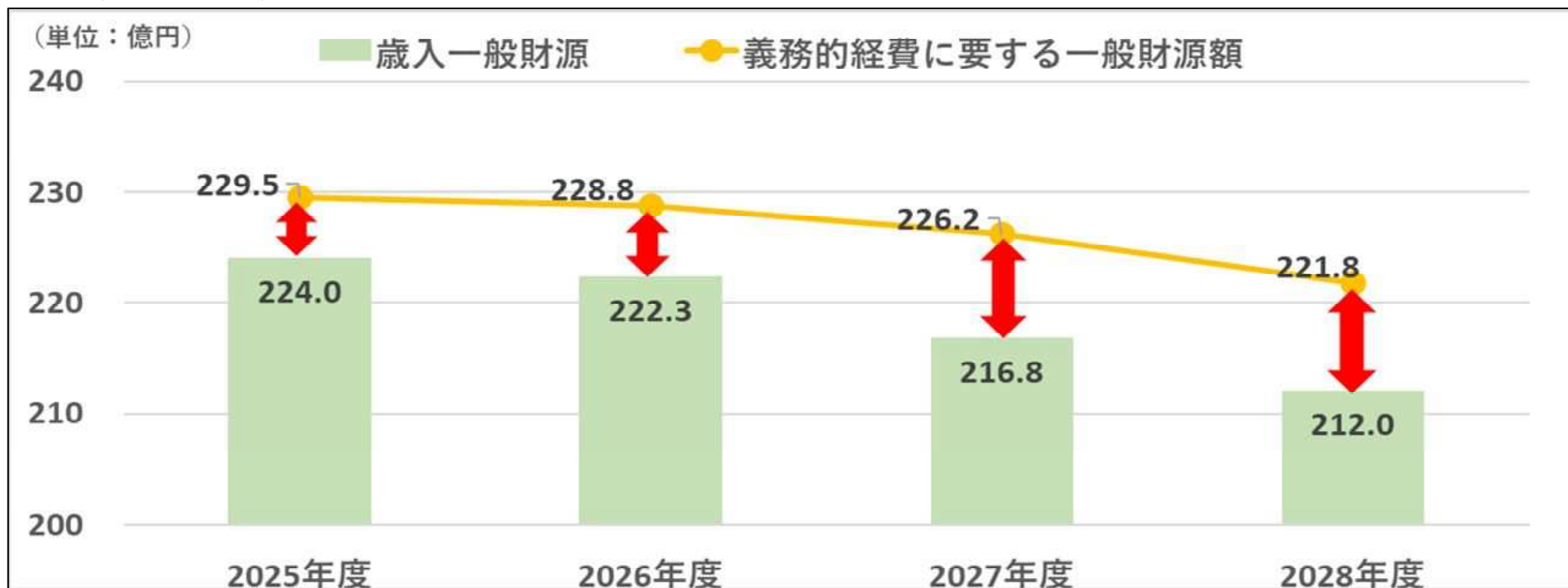


もっと増やせないか？

2 (1) 南砺市立医療機関をとりまく課題

一般会計からの財政支援について

○ (一般会計) 歳入一般財源と義務的経費に要する一般財源の見通し



項目	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
	予算額	推計値		
義務的経費に要する一般財源不足額	5.5億円	6.5億円	9.4億円	9.8億円

2 (1) 南砺市立医療機関をとりまく課題

一般会計からの財政支援について

○一般会計から病院事業への繰出金額【2025年度】

10億9,444万円



もっと増やせないか？



病院事業として、持続可能な運営体制を構築していく必要性

2 (1) 南砺市立医療機関をとりまく課題

課題④ へき地医療の維持が難しくなっていること

少数の医療従事者による運営の限界

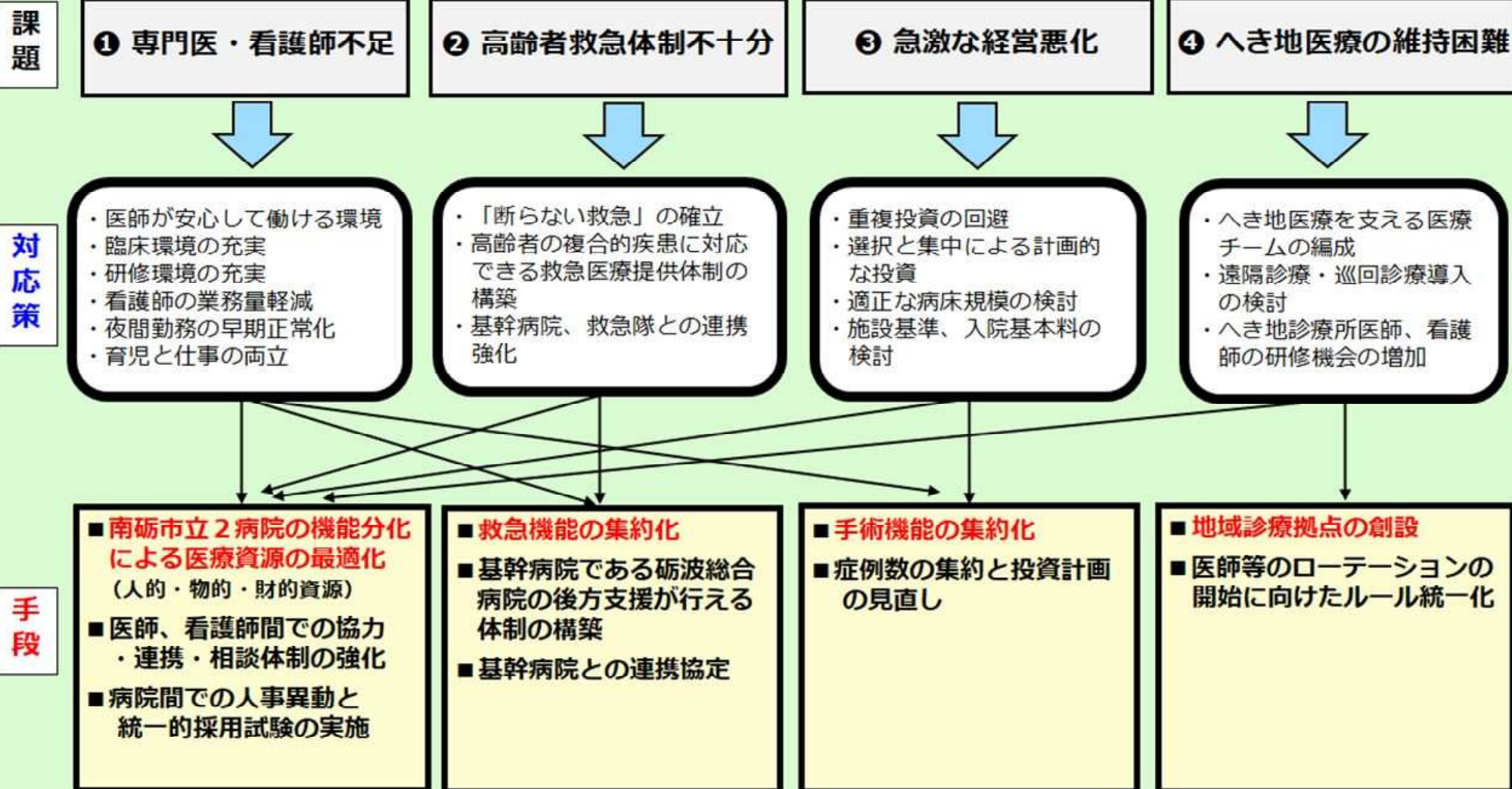
- ・ 症例数が少ないことから、医師が臨床経験を十分に積めない
- ・ 医師が不在となった場合の代替措置
- ・ 施設管理や調剤管理業務など多種多様な業務に対応しなければならない
診療所看護師の高齢化、後継人員の不足

○へき地診療所の運営日数と外来者数の推移

	2014年度		2019年度		2024年度		現在の週当たり 運営日数
	運営日数	外来者数	運営日数	外来者数	運営日数	外来者数	
平診療所	244日	1,965人	139日	1,507人	137日	1,460人	3日/週
上平診療所	244日	3,489人	185日	2,802人	188日	2,739人	4日/週
利賀診療所	244日	3,407人	190日	2,122人	158日	1,551人	4日/週

2 (1) 南砺市立医療機関をとりまく課題

南砺市立医療機関をとりまく「待ったなし」の課題への対応



2 (2) 二次医療圏（砺波医療圏）における課題

2 (2) 二次医療圏（砺波医療圏）における課題

● 砺波医療圏における現状と課題（2026.2.17砺波地域医療構想調整会議）

- ・ 手術は砺波総合病院が中心で南砺市民病院と北陸中央病院が補完
- ・ 砺波医療圏では、がんや心疾患の手術患者が富山医療圏や高岡医療圏へ流出
- ・ 外来患者の約7割が後期高齢者で、今後の増加は見込めない
- ・ 訪問診療、介護予防を目的とした訪問リハビリテーションは需要がある可能性があるが、いずれにせよ、医療従事者の確保が課題
- ・ 20万人未満の小規模医療圏であり、将来的な医療需要の増加は期待できない
- ・ 砺波医療圏においては、病院の機能と規模を再検討する必要がある
- ・ 南砺市立2病院と砺波総合病院の間で、再編統合や機能分化を検討しなければ
共倒れの可能性



2 (2) 二次医療圏（砺波医療圏）における課題

砺波医療圏における課題への対応

課題

① 基幹病院の役割の強化

② 患者需要の変化・減少に伴う
各病院収益の悪化

③ 医療人材の不足

対応策

手段

■ 基幹病院である砺波総合病院の後方支援体制の整備

- ・ 一刻一秒を争わない高齢者の救急受入れ体制の強化
- ・ 手術を要しない入院患者の受入強化
- ・ 急性期を脱した患者の受入体制の強化（基幹病院からの下り搬送環境やリハビリ環境の強化）
- ・ 在宅医療、訪問診療等の強化

■ 基幹病院との機能分化・連携強化の推進

- ・ 基幹病院と後方支援病院の機能分化・連携により、医療資源を最大限効果的に配置し、非効率性を排除
 - ・ 基幹病院へ専門医を一定程度集約し、他の医療圏へ流出している疾患（がん、心疾患などに係る手術）について、砺波医療圏で対応できる環境を整備
 - ・ 砺波医療圏で対応困難な場合には、他の二次医療圏との機能分化も検討
- #### ■ 機能分化に合わせた各病院での病床規模の適正化、施設基準・入院基本料の見直し

3 南砺市立 2 病院の再編案

3 南砺市立2病院の再編案

南砺市立医療機関をとりまく「待ったなし」の課題への対応

- 南砺市立2病院の機能分化による医療資源の最適化（人的・物的・財的資源）
- 医師、看護師間での協力・連携・相談体制の強化
- 病院間をまたぐ人事異動と統一的採用試験の実施

- 救急機能の集約化
- 基幹病院である砺波総合病院の後方支援が行える体制の構築
- 基幹病院との連携協定

- 手術機能の集約化
- 症例数の集約と投資計画の見直し

- 地域診療拠点の立上げ
- 医師等のローテーション開始に向けたルール統一化

南砺市立病院の目指すべき姿

砺波医療圏内における課題への対応

- 基幹病院の後方支援体制の整備
- 基幹病院との機能分化・連携強化の推進
- 機能分化に合わせた各病院での病床規模の適正化、施設基準・入院基本料の見直し

3 南砺市立2病院の再編案

南砺市立2病院の再編（案）の概要

医療機能	再編の目的	再編の概要
(1) 救急機能	<ul style="list-style-type: none"> ① 市民の安全・安心を守り、地域医療の質を維持 ② 院内の医師が手薄になる休日・夜間の救急にも対応 ③ 基幹病院である砺波総合病院を後方支援 	基本的に1箇所に集約
(2) 手術機能	<ul style="list-style-type: none"> ① 限られた医療資源の最適配置 ② 基幹病院の後方支援病院としての高齢者手術の習熟 ③ 医師が安心して手術を行える環境の整備 ④ 医療機器等の重複投資回避による病院経営の健全化 	1箇所に集約
(3) 外来機能	① 市民に身近な診療機能であるため、医師が確保できないなどやむを得ない場合を除き、原則、集約しない	原則、集約しない
(4) 入院機能	<ul style="list-style-type: none"> ① 限られた医療資源の最適化 ② 基幹病院である砺波総合病院を後方支援 	機能分化に応じ、適正な病床規模を双方に配置
(5) へき地医療体制	<ul style="list-style-type: none"> ① 医療従事者不足が慢性化するへき地診療の維持継続 ② 民間開業医の高齢化に伴う訪問診療の担い手不足への対応 	地域診療拠点を創設

3 南砺市立2病院の再編案

(1) 救急機能：基本的に1箇所に集約

- ・ 市民の安全・安心を守り、地域医療の質を維持
- ・ 医師が手薄になる休日、夜間の救急にも対応
- ・ 基幹病院である砺波総合病院を後方支援

→南砺市立2病院の手術機能については、1箇所に集約

集約先は、南砺市民病院を予定



なぜ、集約先が南砺市民病院なのか？

○なぜ、救急機能の集約先が南砺市民病院なのか？

① ドクターカーの運用

- ・ 2020年より本格稼働、救急隊と共に患者の救急対応に貢献

② 高齢者疾患に広く対応

- ・ 消化器系、腎・尿路系、呼吸器系など高齢者に多くみられる疾患に対応する常勤専門医が幅広く勤務
- ・ 医師、看護師数が多く、救急搬送後の患者の包括的な管理体制がより充実

③ 二次医療圏における実績

- ・ 砺波総合病院に次ぐ救急受入れ件数

3 南砺市立2病院の再編案

○救急受入件数（2024.4.1～2025.3.31）

南砺市民病院

○救急受入件数		救急受入 件数	うち、入院と なった件数
救急受入件数（全体）		5,293件	1,113件
(1) 直接来院		4,204件	468件
① 平日の直接来院件数		2,434件	305件
a うち受診時間帯	8:30-16:59	1,808件	188件
	17:00-23:59	478件	94件
	0:00-8:29	148件	23件
② 休日（祝日を含む）の直接来院件数		1,770件	163件
a うち受診時間帯	8:30-16:59	1,331件	93件
	17:00-23:59	287件	52件
	0:00-8:29	152件	18件
(2) 救急車受入件数		1,089件	645件
① 平日の救急車受入件数		757件	459件
a うち受診時間帯	8:30-16:59	439件	267件
	17:00-23:59	181件	112件
	0:00-8:29	137件	80件
② 休日（祝日を含む）の救急車受入件数		332件	186件
a うち受診時間帯	8:30-16:59	147件	74件
	17:00-23:59	112件	73件
	0:00-8:29	73件	39件

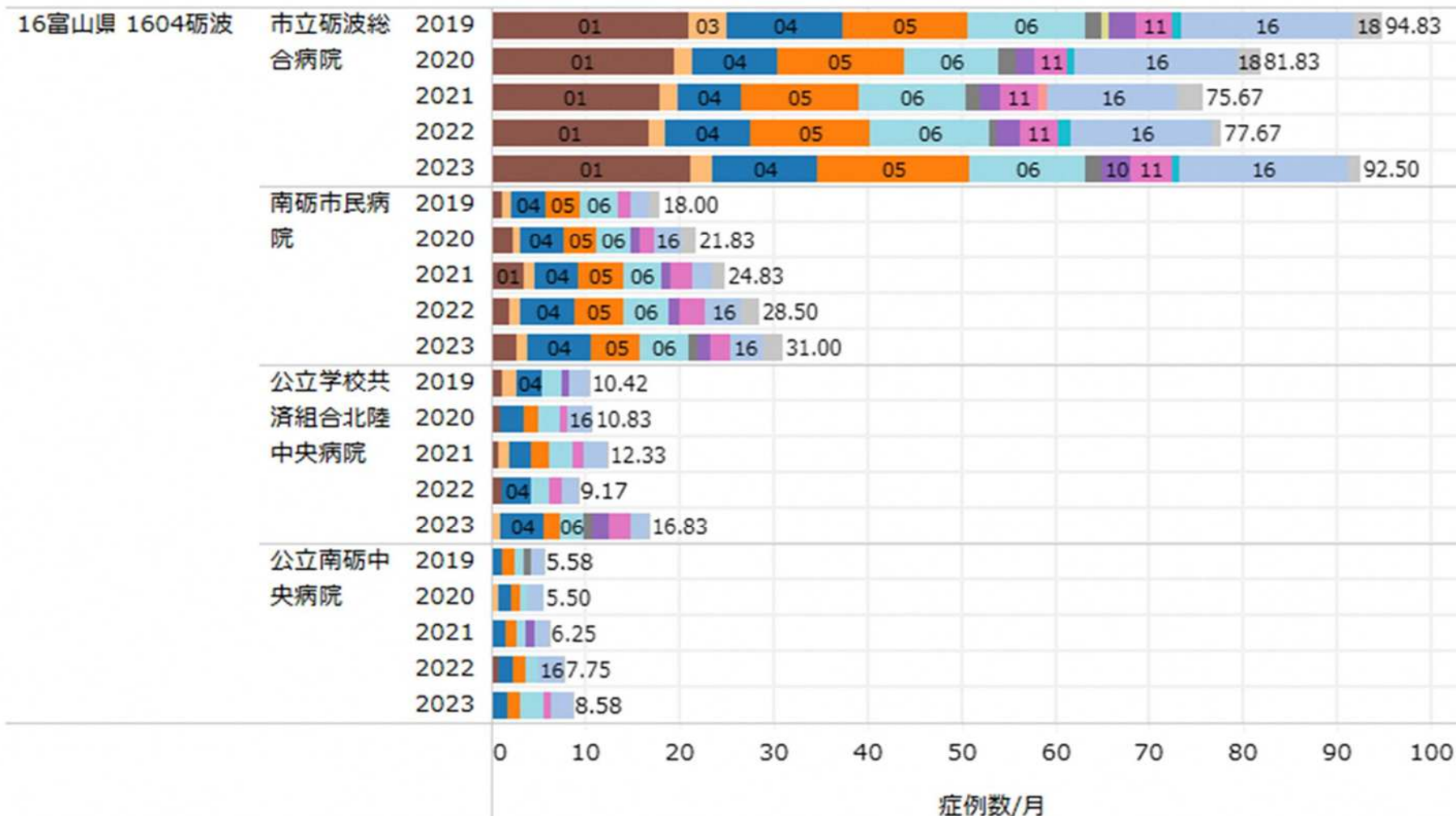
南砺中央病院

○救急受入件数		救急受入 件数	うち、入院と なった件数
救急受入件数（全体）		1,667件	399件
(1) 直接来院		935件	78件
① 平日の直接来院件数		239件	25件
a うち受診時間帯	8:30-16:59	56件	0件
	17:00-23:59	165件	12件
	0:00-8:29	18件	13件
② 休日（祝日を含む）の直接来院件数		696件	53件
a うち受診時間帯	8:30-16:59	565件	44件
	17:00-23:59	114件	9件
	0:00-8:29	17件	0件
(2) 救急車受入件数		732件	321件
① 平日の救急車受入件数		480件	224件
a うち受診時間帯	8:30-16:59	278件	128件
	17:00-23:59	107件	55件
	0:00-8:29	95件	41件
② 休日（祝日を含む）の救急車受入件数		252件	97件
a うち受診時間帯	8:30-16:59	164件	61件
	17:00-23:59	56件	18件
	0:00-8:29	32件	18件

3 南砺市立2病院の再編案

○ 砺波医療圏内における医療機関別救急搬送入院数

厚労省DPC調査-MDC別集計 (2023-2019年) : 救急車搬送入院数



3 南砺市立2病院の再編案

○なぜ、救急機能の集約先が南砺市民病院なのか？

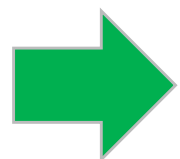
④ 一刻一秒を争う救急搬送の搬送先は変わらない

- ・ 現在、既に市外の基幹病院へ搬送

⑤ 市立2病院間における距離

- ・ 車で15～20分間

⑥ 市民生活に最も身近な外来機能は集約しない



地理的な中心点、人口の中心点という視点でなく、包括的な医療提供体制が充実しており、救急機能がより充実している南砺市民病院に集約

3 南砺市立2病院の再編案

(2) 手術機能：1箇所に集約

- ・ 医療資源の最適配置の実現
 - ・ 基幹病院の後方支援病院としての高齢者手術の習熟
 - ・ 医師が安心して手術を行える環境の整備
 - ・ 医療機器等の重複投資回避による病院経営の健全化
- 南砺市立2病院の手術機能については、1箇所に集約

集約先は、南砺市民病院を予定

○なぜ、集約先が南砺市民病院なのか？

① 対応可能な手術の多さ

高齢者に多い疾患に係る手術を幅広く実施

② 術後管理の充実

複数の診療科にわたり常勤医師が多く勤務、術後管理において
高齢者の複合的な疾患や合併症に対応しやすい

③ 医療安全面での充実

世界基準であるJCI認証、日本医療機能評価機構による病院
機能評価を取得しており、医師が安心して手術を行える環境が
整備

3 南砺市立2病院の再編案

(2) 手術機能

○南砺市立2病院における手術実績（2023年度実績）

手術区分	南砺市民病院	公立南砺中央病院
外科手術	107件	14件
整形外科手術	34件	279件
眼科手術	286件	0件
泌尿器手術	228件	0件
内科手術（ポート創設等）	47件	28件
その他の手術	48件	9件
合計件数	750件	330件

3 南砺市立2病院の再編案

(2) 手術機能

○南砺市立2病院の職種別職員数（2025.3.31時点）

区 分 職 種	【南砺市民病院】				【公立南砺中央病院】			
	2024. 3. 31 現在	増	減	2025. 3. 31 現在	2024. 3. 31 現在	増	減	2025. 3. 31 現在
医師	29名	5名	9名	25名	8名	2名	3名	7名
薬剤師	7名	1名	1名	7名	6名			6名
看護師	119名	7名	4名	122名	69名	3名	1名	71名
准看護師	3名			3名	0名			0名
診療放射線技師	6名	1名		7名	5名			5名
臨床検査技師	7名			7名	5名			5名
理学療法士	14名	2名	2名	14名	11名			11名
作業療法士	12名	2名	1名	13名	6名			6名
事務職員	16名			16名	13名	4名	2名	15名
臨床工学技士	1名			1名	1名			1名
視能訓練士	2名			2名	0名			0名
臨床心理士	1名			1名	0名			0名
社会福祉士	4名	2名	1名	5名	3名			3名
言語聴覚士	4名	1名		5名	2名			2名
介護福祉士	11名			11名	19名	5名		24名
管理栄養士	4名			4名	2名	1名		3名
歯科衛生士	2名			2名	0名			0名
助手	2名			2名	0名			0名
計	244名	21名	18名	247名	150名	15名	6名	159名

3 南砺市立2病院の再編案

(2) 手術機能

○南砺市立2病院における常勤医師数（2025.3.31現在）

(1) 大学医局等別

南砺市民病院		南砺中央病院	
	医師数		医師数
① 金沢大学附属病院	9	① 金沢大学附属病院	4
呼吸器内科	2	内科	1
血液内科	2	整形外科	3
小児科	1		
消化器外科	1		
泌尿器科	1		
眼科	1		
歯科口腔外科	1		
② 富山大学附属病院	6		
糖尿病代謝・内分泌内科	1		
腎・高血圧内科	1		
消化器内科	2		
放射線診断科	1		
総合診療科	1		
③ 金沢医科大学	2		
整形外科	2		
④ 富山県	1	④ 富山県	1
外科	1	内科	1
⑤ 大学医局等に所属しない	7	⑤ 大学医局等に所属しない	2
内科、外科	7	内科	2
常勤医師数	25	常勤医師数	7

※南砺市民病院の常勤医師数25人には、一時的に富山大学附属病院に在籍している2名の医師（総合診療医1名・血液内科医1名）を含んでいません。

(2) 診療科別

南砺市民病院		南砺中央病院	
	医師数		医師数
① 内科	14	① 内科	4
金沢大学附属病院	4	金沢大学附属病院	1
富山大学附属病院	4	富山県	1
大学医局等に所属しない	6	大学医局等に所属しない	2
② 外科	3		
金沢大学附属病院	1		
富山県	1		
大学医局等に所属しない	1		
③ 泌尿器科	1		
金沢大学附属病院	1		
④ 眼科	1		
金沢大学附属病院	1		
⑤ 整形外科	2	⑤ 整形外科	3
金沢医科大学	2	金沢大学附属病院	3
⑥ 歯科口腔外科	1		
金沢大学附属病院	1		
⑦ 総合診療科	1		
富山大学附属病院	1		
⑧ 小児科	1		
金沢大学附属病院	1		
⑨ 放射線診断科	1		
富山大学附属病院	1		
常勤医師数	25	常勤医師数	7

3 南砺市立2病院の再編案

(2) 手術機能

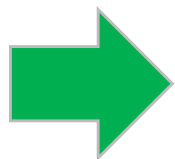
○南砺市立2病院における標榜診療科（2025.3.31時点）

	南砺市民病院	公立南砺中央病院
標榜診療科	24科	16科
内科	○	○
心療内科、心療内科・精神科	○	○
呼吸器内科・呼吸器科	○	○
消化器内科、消化器科	○	○
循環器内科	○	○
腎臓内科	○	—
糖尿病・代謝・内分泌科	○	—
血液内科	○	—
精神科	○	—
小児科	○	○
外科	○	○
消化器外科	○	—
整形外科	○	○
脳神経外科	○	○
肛門外科	○	—
皮膚科	○	○
泌尿器科	○	○
婦人科、産婦人科	○	○
眼科	○	○
耳鼻咽喉科	○	○
病理診断科	○	—
リハビリテーション科	○	○
放射線科	○	○
歯科口腔外科	○	—

3 南砺市立2病院の再編案

○なぜ、集約先が南砺市民病院なのか？

- ① 対応可能な手術の多さ
- ② 術後管理の充実
- ③ 医療安全面での充実



**対応可能な手術が多く、
医療従事者の多さから術後管理が充実、
医療安全面を強化してきた南砺市民病院へと集約**

(3) 外来機能：原則、集約しない

- ・ 市民にもっとも身近な診療機能
- ・ **1箇所に集約させず、現在の外来機能を維持することを基本**
- ・ **ただし、医師の確保が困難な場合などは、その診療科に限り、より幅広い外来機能を有する南砺市民病院へと集約**
- ・ **必要に応じて、南砺市民病院から南砺中央病院に医師を派遣**
- ・ **専門医であっても包括的な診療を行える医師や総合診療医を育成できる環境を整備**

3 南砺市立2病院の再編案

(3) 外来機能

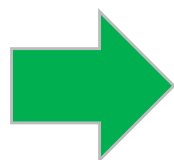
○南砺市立2病院の外来実績 (2025.3.31時点)

区 分 科 別	南砺市民病院		
	2024年度	2023年度	増 減
	人	人	人
内科	34,981	34,784	197
外科	3,664	3,435	229
小児科	3,096	3,149	△ 53
整形外科	9,407	9,548	△ 141
婦人科	837	733	104
耳鼻咽喉科	2,100	1,950	150
眼科	4,829	5,208	△ 379
泌尿器科	4,796	4,620	176
皮膚科	4,039	4,225	△ 186
脳神経外科	344	346	△ 2
心療内科・精神科	1,491	2,055	△ 564
リハビリテーション科	757	1,025	△ 268
歯科口腔外科	2,493	2,317	176
透析	5,622	5,063	559
小 計	78,456	78,458	△ 2
デイケアセンター	4,845	4,868	△ 23
ドック	2,457	2,259	198
合 計	85,758	85,585	173

区 分 科 別	南砺中央病院		
	2024年度	2023年度	増 減
	人	人	人
内科・消化器科	20,216	20,286	△ 70
外科	1,596	1,654	△ 58
小児科	1,758	2,066	△ 308
整形外科	20,868	20,473	395
産婦人科	170	254	△ 84
耳鼻咽喉科	3,982	3,636	346
眼科	1,417	1,326	91
泌尿器科	3,265	2,870	395
皮膚科	3,370	3,205	165
脳神経外科	596	535	61
心療内科・精神科	157	163	△ 6
放射線科	23	24	△ 1
救急科	13	21	△ 8
透析	4,396	4,523	△ 127
小 計	61,827	61,036	791
ドック	1,513	1,391	122
合 計	63,340	62,427	913

(4) 入院機能：機能分化に応じ、適正な病床規模を配置

- ・再編による機能分化に応じ、病床数の適正化をはかった上で、双方の病院に配置する予定



- ・救急機能と手術機能を集約させる南砺市民病院には、医療資源を多く必要とする高齢者中心の入院病床を配置
- ・南砺中央病院には、日常生活への復帰を支援するための入院病床を配置
- ・必要に応じ、南砺市民病院から南砺中央病院に医師派遣

3 南砺市立2病院の再編案

○南砺市立2病院の入院実績（2025.3.31時点）

手術区分	南砺市民病院	公立南砺中央病院
入院患者延べ数	病 院：49,074人	病 院：39,743人 介護医療院：5,566人
内科・消化器科	33,465人	23,100人
外科	2,868人	123人
歯科口腔外科	57人	—
整形外科	1,079人	16,520人
小児科	0人	0人
泌尿器科	330人	0人
眼科	649人	0人
耳鼻咽喉科	0人	0人
リハビリテーション科	10,626人	—

(5) へき地診療機能（地域診療拠点の創設）

創設の背景

① 訪問診療の継続リスクへの対応

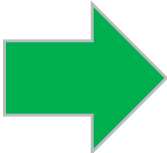
- ・ 民間開業医の高齢化と後継者不足による訪問診療業務の継続危機

② へき地医療の継続リスクへの対応

- ・ 山間部における人口減少に伴う症例数の減少と研修機会の減少
- ・ へき地診療所における看護師の高齢化
- ・ 医師不在（出産、罹患等）の際の対応強化

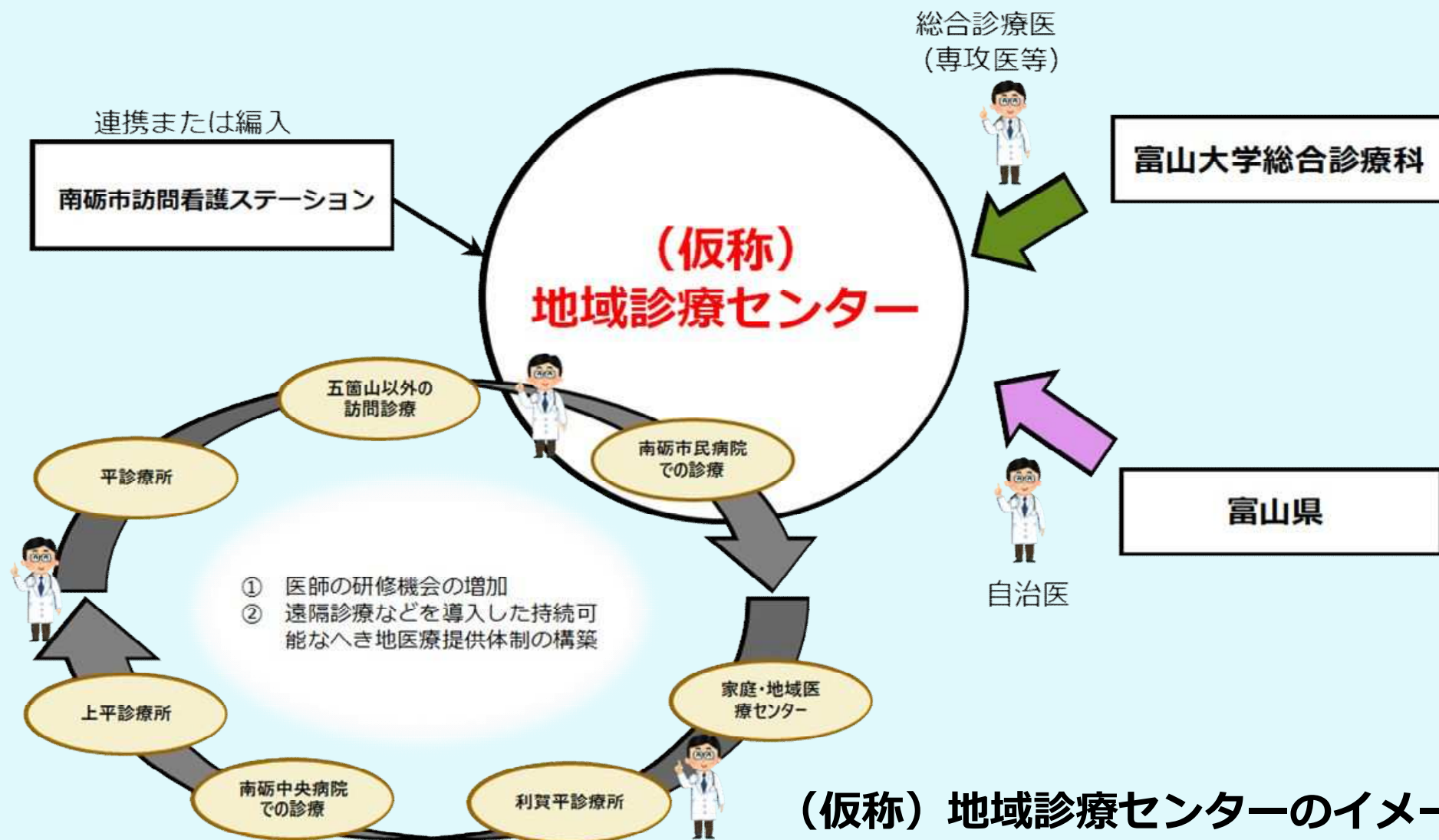


(5) へき地診療機能（地域診療拠点の創設）

- ・ 訪問診療の継続に関する課題
 - ・ へき地医療の提供に関する課題
- 
- ・ 地域診療拠点（仮称：南砺市地域診療センター）を創設
 - ・ 医師等のローテーション、遠隔診療の導入等によって、持続可能なへき地医療提供体制を構築

3 南砺市立2病院の再編案

(仮称) 地域診療拠センターのイメージ



4 再編後の姿

4 再編後の姿

再編後の姿

■ 南砺市民病院 ■

- ・ 病院の位置づけ → 砺波総合病院を後方支援する病院
- ・ 救急搬送を含む救急受入 → 原則、南砺市民病院で対応する体制へ移行
- ・ 手術機能 → 南砺市民病院で実施する体制へ移行
- ・ 外来機能 → 原則、維持
- ・ 入院機能 → 医療度の高い患者の入院病棟を配置
- ・ 人材育成 → 総合診療医、特定行為看護師の育成

4 再編後の姿

再編後の姿

■ 南砺中央病院 ■

- ・ 病院の位置づけ → 軽度な患者の日常生活への復帰を支える病院
- ・ 救急搬送を含む救急受入 → 平日日中に限り、対応可能な範囲で受け入れ
※平日夜間・休日は南砺市民病院へ
- ・ 外来機能 → 原則、維持
※必要に応じて南砺市民病院から医師を派遣
- ・ 入院機能 → 医療度の低い患者の入院病棟を配置
※必要に応じて南砺市民病院から医師を派遣
- ・ 介護医療院 → 介護・医療双方のサービスを必要とする長期療養患者の受け入れ

4 再編後の姿

○再編スケジュール

今回の再編：概ね3年間の移行期間を経て再編後の形態へと移行していく予定

○再編時期の見込み ※具体的な再編完了時期は前後する可能性あり

	当該年度	1年後	2年後	3年後
再編に係る基本構想の策定 (病床規模の検討等)		半年～1年程度 策定完了		
救急機能の集約		随時移行		移行完了
手術機能の集約			随時移行	移行完了
地域診療拠点の創設		準備室設置・仮運用開始	センター本格運用開始	

4 再編後の姿

再編に伴い検討すべき事項

- ① 機能分化に合せた市立2病院の具体的運営体制
(**病床規模、施設基準、入院基本料、設備投資計画、職員配置計画**)
- ② 再編後の短期経営計画(10年程度)の策定
- ③ **砺波総合病院との救急・入院に関する連携方針の策定**(患者の上り搬送・下り搬送等)
- ④ **患者等の交通アクセス**の検討(病院間の往復バスなど)
- ⑤ **へき地医療における遠隔診療、巡回診療車の導入等**
- ⑥ 詳細な再編ロードマップの策定(部門別職員説明会などを含む) ほか

4 再編後の姿

